

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

1 毎日を生きる

(2) 毎日の目的

生活するのに目的が必要なのか、そんなことを考えていたら毎日を楽しく過ごして行くことはできないように思われ、無駄なように感じる人が多いと思われます。目的を持たない生き方は存在しないのが本当ですが、それを意識することなく毎日を過ごしているだけではないでしょうか。

特に意識することなく、毎日を何気なしに、時代の流れにのまれながら、なにげなく時間が経過して行くことを感じながら、それを自然と思い、そのことが大切な生き方だとし、毎日を簡単に生きる方法として、あまり考えないこと悩まないこと、何とかなるさの精神で生きることが大切とし、そのように思い、毎日を楽しく生活すること、そのことの素晴らしさを強く感じ、それが人間として生まれてきた姿であり、そんな人生を継続させることが一番楽しいものと定義して毎日を思うように生きようとしている人が多いと思ひます。

毎日の生活において何かを感じながら生かされ、何かを感じながら生きているその意味、生きる楽しさをいかに捉え前に進めるのか、どんなことにおいてもその内容に意味があることの存在を感じ、不幸と思うことの哀れさを知り、時間との向き合い方の大切さを悟り、毎日を人間としていかに生きるかをどう判断して生活することが一番か、生きるその人その人の人生が形成されていきます。

現状を見てみると、生きることの内容を明確することの考えを持ち、その分析方法、整理方法などを具体化することの難しさがあひ、問題点・課題を具体化し、目標をいかに持つかの作業は、あまり紹介されていないことも事実であり、簡単にできる状況ではないかもしれませんが、現在及び将来のことを考えると、避けて通れないことも事実ですし、どうしたら見えているようで見えていないような現実をはっきりさせるのが課題となっているのも事実です。

毎日感じようと感じないでも、目的を持って生きていることは事実です。目的を持って、今生きている時間・明日の時間の保障がどうされているのか、社会において保障されているのか、どこにおいても保障されているのか、そのことは自分の周り、社会に理解されているのか、不安があり、どうなっているのか判らないのが事実です。それでも個人として、楽しいと感じながら生活することが一番です、前に向かって進んでいく時間とどのように向き合っていくかが問題になる時代です。